

ISSN 1910-2396

# 野鳥たより

—北海道—

第 103 号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 平成 8 年 3 月 21 日

ハジロクロハラアジサシ



7. 7. 8 石狩新川河口

撮影者 渋谷 信 六

〒063 札幌市西区福井8丁目9-2



## もくじ

40歳の豊かさ—小鳥の村—	梶浦孝純	2
留萌市街周辺の野鳥	須藤昌子	3
探鳥会報告		5
モロッコの旅先で鳥見行	早坂泰夫	8
探鳥会案内		9
鳥民だより		10

## 40歳の豊かさ — 小鳥の村 —

梶浦孝純

新緑の針広葉樹林が広がり、四季折々に樹間には野鳥が訪れて楽しいさえずりを聞かせ、エゾリスやエゾモモンガが枝から枝へとエサを求めてリズムカルにジャンプする。藤野マナスルへ続く樹林の中の自然探索道の両脇には春から秋にかけて、様々な野草たちが個性のある顔を見せてくれる……。

札幌市の中心部より南南西約12kmのところにあるこの「藤の沢小鳥の村」は、豊平川風致地区にふさわしい自然の豊かな表情を現存している。標高317mの独立峰「藤野マナスル」に広がる丘陵地帯と裾を撫でるように流れる豊平川支流のオカバルシ川は、動植物達にとっても自然生態系から絶好の生息条件の場であるということが言える。

昭和31年5月17日、昨年2月に逝去された小鳥の村名誉村長・小澤田記氏（札幌市南区藤野382番地）の創意とご尽力によって開設された「藤の沢小鳥の村」は、当時は全国でも珍しい自然保護活動のとりくみで丘陵地に愛鳥広場を設置するとともに、この地における学校・地域の愛鳥保護活動を推進させ、「愛鳥愛人」の理念のもとに数々の輝かしい業績をあげ、常陸宮殿下はじめ各皇室の方々のご来村を賜ったとともに、文部大臣・農林大臣・環境庁長官などの受賞をいただいた。

この地域の自然度は極めて高く、コブシ・ミズナラ・ホオノキ・カツラ・クリ・シナノキ・シラカバ・カラマツ・エゾマツなどの多種多様な樹木が生い茂り、野鳥や小動物・昆虫達にとっては、住みよい環境を構成している。それだけに、ここで観察できる鳥達は、四季を通じて様々な種類のバードウォッチができ、多くの愛好家が訪れている。平成5年12月から平成6年9月にかけて、北海道野鳥愛護会や地域のバードウォッチ愛好家の皆様のご協力により、藤野地域の野鳥生息センサーを行い、小鳥の村地区において約60種ほどの確認をしている。

このような自然に恵まれた小鳥の村の環境と活動の歩

みは、絶えることなく次の年代の人々に愛され、引き継がれ、今年で40年を迎えるに至ったわけであるが、時代の変遷とともに地域が都市化していく中で、この現存されている環境を「市民の森」として公設化できるように、地元でさっぽろ野鳥の森推進期成会が設立され、札幌市に実現へのはたらきかけを行なっている。

今、開村40周年を迎える「藤の沢小鳥の村」は、その緑多い環境と様々な野鳥や野草達とともに、豊かな共存のあり方をこれからも多くの人に感じさせていくことと信じるし、生涯をかけて小鳥の村の保護活動に努力された小澤さんのおじいさんの遺志を継ぐものと思う。

そのためにも、野鳥に愛され、市民に親しまれる自然の森として、末永く保護活動を進めていかなければならないと考える。

〒005 札幌市南区南の沢5条2丁目6-6



小鳥の村



イロウミツバメは1日だけ、コクガンは1月19日まで港内に留まって、猛吹雪の置き土産といった感じでした。

ヤマガラは道東・道北では少ないとされています。じつ、そのとおりで、宗谷管内豊富にいた2年間、全く見かけませんでした。留萌でも、てっきりいないと思っていましたが、この3年間で1回だけ見かけました。ところが、昨年4月、日本野鳥の会・道北支部の焼尻島探鳥会に参加した時、ヤマガラにけっこうでくわしました。バンディングをしていた人が「焼尻はけっこう渡り鳥の宝庫なのです」とその意外性を話してくれました。晴れて見通しのいい時には、留萌の千望台という丘の上からその焼尻島が見えます。

留萌は、そのおこぼれをいただいているせいか、山野

の渡り鳥もそれなりに楽しめます。千望台には、毎年の常連としてツツドリ、コルリ、ルリビタキ、クロツグミ、アカハラ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、アオジなどが渡来します。

野の鳥としては、ノビタキ、ホオジロ、ホオアカ、ヒバリ、オオヨシキリが常連です。留萌は平坦な土地が少ないせいか、ノビタキが丘陵の中腹、やや平坦な所にいることもあります。

以上述べたとおり、留萌は探鳥のいわゆる「名所」ではありません。しかし、ひごろ丹念に観察していれば、それなりに多彩な鳥の絵図を見出すことができます。人の住む所どこにもそれなりの趣はあると思います。

〒077 留萌市野本町108

### 留萌市街周辺の野鳥リスト

1993. 4. 1 ~ 1996. 2. 10

科名	鳥名	科名	鳥名
アビ科	アビ、オオハム	アマツバメ科	アマツバメ
カイツブリ科	カンムリカイツブリ、アカエリカイツブリ、ミミカイツブリ、ハジロカイツブリ、カイツブリ	カワセミ科	カワセミ
ウミツバメ科	ハイイロウミツバメ	キツツキ科	アリスイ、ヤマゲラ、クマゲラ、アカゲラ、オオアカゲラ、コゲラ
ウ科	ウミウ、ヒメウ	ヒバリ科	ヒバリ
サギ科	ダイサギ、アオサギ	ツバメ科	ショウドウツバメ
ガンカモ科	オオハクチョウ、コクガン、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、オシドリ、オカヨシガモ、オナガガモ、ヒドリガモ、ホオジロガモ、キンクロハジロ、スズガモ、シノリガモ、コオリガモ、クロガモ、ピロードキンクロウミアイサ、カワアイサ	セキレイ科	キセキレイ、ハクセキレイ、ビンズイ、タヒバリ
ワシタカ科	トビ、オジロワシ、オオタカ、ハイタカ、ノスリ	ヒヨドリ科	ヒヨドリ
ハヤブサ科	ハヤブサ	モズ科	モズ
ライチョウ科	エゾライチョウ	レンジャク科	キレンジャク、ヒレンジャク
シギ科	トウネン、ヒバリシギ、オバシギ、タカブシギ、キアシシギ、イソシギ、ソリハシシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ、ヤマシギ、オオジシギ	ミソサザイ科	ミソサザイ
ヒレアシシギ科	アカエリヒレアシシギ	イワヒバリ科	カヤクグリ
カモメ科	ユリカモメ、オオセグロカモメ、ワシカモメ、シロカモメ、カモメ、ウミネコ、アジサシ	ヒタキ科ツグミ亜科	コマドリ、コルリ、ルリビタキ、ジョウビタキ、ノビタキ、イソヒヨドリ、クロツグミ、アカハラ、シロハラ、マミチャジナイ、ノドクロツグミ、ツグミ
ウミスズメ科	ウミガラス、ケイマフリ、マダラウミスズメ、ウミスズメ、ウトウ	ヒタキ科ウグイス亜科	ヤブサメ、ウグイス、エゾセンニュウ、コヨシキリ、オオヨシキリ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キクイタダキ
ハト科	キジバト、アオバト	ヒタキ科ヒタキ亜科	キビタキ、オオルリ、コサメビタキ
ホトトギス科	カッコウ、ツツドリ	エナガ科	シマエナガ
		シジュウカラ科	ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ
		ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ
		キバシリ科	キバシリ
		メジロ科	メジロ
		ホオジロ科	ホオジロ、ホオアカ、カシラダカ、

科名	鳥名	科名	鳥名
ホオジロ科	ミヤマホオジロ、アオジ、クロジ、オオジュリン、ユキホオジロ	ハタオリドリ科	ニューナイスズメ、スズメ
アトリ科	アトリ、カワラヒワ、マヒワ、ハギマシコ、ベニマシコ、ウソ、イカル、シメ	ムクドリ科	コムクドリ、ムクドリ
		カラス科	ミヤマカケス、ハシブトガラス、ハシボソガラス



## 小樽探鳥会

7. 12. 10.

鍋島 由次郎

12月10日、二度目の雪が消え残る晴天にめぐまれた小樽探鳥会である。一位の実をヒヨドリが惜しそうについばむ街を駆へと急ぐ。駅前通りにはバスが待っていてくれ早速乗り込む。バスは2台が3台となり、札幌勢が多数乗り込んでいよいよ出発となる。

祝津に向かってゆく道みち、注意事項やチェックリストを渡される。間もなく祝津着。子供さん方も参加して大変賑やか。一団となって日和山を目指す。水族館のトドさんが咆えるなか、早くも崖ぎわに人垣がつくれ観察の仕度が始められる。

海はやや和いで遠く積丹半島まで見えるほどの晴天、早くもカモ類をキャッチした方々の声がそここに聞こえて、私もプロミナを覗かせてもらう。

近くのトド岩にはいつもよりカモメの数がすくない。カモ類が群れをなして休んでいるのを見たことがあるのに……。

灯台の岬の沖にフェリーの巨体が現れた。意外に船脚の速いのびっくり。

次の祝津漁港には漁船がぎっしりと停泊している。右手の生け簀のある入江にはカモ類がたくさん入っている。早速双眼鏡で追う。

次はトンネルを一つ越した豊井浜で下車。相変わらずひっそりしたカモの遊戈を遠く、近くそれとなく眺める。後ろに崖を負っている故か寒さが身にしみてくる。

カモさんも時ならぬ人垣に驚いて遠ざかったのか少いようである。

こんどは高島をぬけて小樽港域内に入る。外海とちがい穏やかな海面である。

心ゆくまでいろいろなカモ類の説明を受けつつ観察する。その時は納得しても、直ぐに忘れ致し方もありません。皆様は実に、熱心に勉強しているように思う。

もう昼食の時間らしくバスをフェリー埠頭で下車し、待合所の二階で昼食。ベランダよりの眺めは抜群だった。

最後は勝納貯木場へ到着。ウミネコに混じっているシロカモメを梅木賢俊さんより教えてもらう。

もう三時すぎのうすら寒い曇り空となり、最後の鳥合わせで終了する。合計30種の探鳥会でした。

〒047 小樽市相生町2番17号

[記録された鳥] オオハム、ミミカイツブリ、ハジロカイツブリ、トビ、ウミウ、ヒメウ、コガモ、キンクロハジロ、スズガモ、シノリガモ、コオリガモ、ホオジロガモ、ウミアイサ、ウミネコ、カモメ、オオセグロカモメ、シロカモメ、ワシカモメ、ミツユビカモメ、ウミガラス、ハシブトウミガラス、ケイマフリ、ウミスズメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ハギマシコ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト、<sup>\*</sup>ハイイロウミスズメ

※鳥合せ後に戸津氏他数名が観察したとの報告あり。

以上31種。

[参加者・札幌] 青江 正、石橋和子、井上公雄、伊東恭子、伊藤聖子、上田邦彦、小川祐子、柏葉 明、川端功治、川守田順吉、木村与吉、栗林宏三、小堀煌治、近藤節子、小須田秀子、佐々木友子、佐々木泰夫、佐藤幸典、佐藤ひろみ、志田博明・政子、清水朋子、白澤昌彦、首藤 敏、杉田範男、鈴木倫太郎・みどり・森太郎・岳二郎、田中志司子、田中礼子、竹内 強、高宮義治、中正憲信・弘子、戸津高保・以知子、道場 優、成澤里美、永島良郎・トキ江、西川喜久世、野坂英三、羽田恭子、浜田 強、橋谷、橋谷真成、梁取、樋口孝城・陽子、広川淳子、松本六郎・美智子、森 茂太・純子・林太郎、森田新一郎、柳澤信雄・千代子、矢野玲子、山田良造、山田英子、山本 清

[参加者・小樽] 雨夜美千子、岩瀬 操、内山和子、梅木賢俊、梅木允子、大久保和子、大滝敬子、小笠原主計、荻野貴美子、菊地 坦、清田吉晴、栗木君江、齊田英代、齊藤正彦、佐藤領江子、志賀英子、霜中愛子、瀬戸俊典、園田美根子、竹内悦子、竹内喜代治、竹生あけみ、田中喜重、中野由美子、鍋島由次郎、長谷川昭子、長谷川和子、番 妙子、松浦重夫、松山佳則、村田義宏、村本慶子、米田美保、渡辺俊夫、渡邊智子 以上98名

[担当幹事] 齊藤正彦、白澤昌彦、戸津高保、渡辺俊夫

小樽探鳥会は恒例により日本野鳥の会小樽支部と共催でした。小樽の皆さんには大変お世話になりました。誌上をかりて改めて御礼申し上げます。(広報担当)



## 新年探鳥会に参加して

—藤の沢・白鳥園—

8. 1. 21 木村与吉

藤の沢・白鳥園の探鳥会には初めて参加するので、場所がすぐ分かるかどうか心配しながら家を出る。

昨夜の「野鳥お勉強会」で会った柳澤さんから「車はやめてバスで来なさい。」と言われたので、千歳駅8時過ぎのJRに乗り、地下鉄一丁目までつバスと乗り継ぎ予定通り、藤の沢3条2丁目まで降りる。

下車したのは地元の人らしいおばさんと2人。まわりを見渡しても白鳥園への道標など見当たらない。一緒に下車したおばさんに聞くが分らない。「そのこのセブンイレブンで聞いたら…」とのこと。店内にはお客が2～3人レジで待っていた。仕方なくパンを持ってレジのお姉さんに尋ねるが「知りません。」のひと言。折角パンを買ってやったのに「むっ！」として外に出る。

しかし、どちらに行けばよいか全く分らない。何はともあれ道を聞かなければと、目についた薬局で尋ねると「少し戻ると信号があるから、そこを曲って行くとあるよ。」と教わる。有り難い。ほっとして更に「信号からどちらに曲るのか？」を聞くと、「片方しか道が無いよ」とのこと。そうか三又路か。「どのくらいかかりますか？」と聞くと「車で？」「いや、歩いて…」と言う次第。まずは行く方向が分かったのでお礼を言って歩き始める。

言われたとおり信号を片方の道に進む。いくら歩いても立派な住宅街、車道の両側の歩道まで綺麗に除雪されている。白鳥園はこの道でよいのかと心配しながら歩いて行くと、左手に「小鳥の村」の表示があって広く除雪された道路もついている。

この道だと確信をもって歩いて行くと、立派な学校にぶつかった。門のところに守衛のボックスがあったので「白鳥園と言う野鳥の観察が出来るところはこの奥にあるか？」と聞くが「知らないけれど、野鳥の観察路はこの奥にあるが、雪が胸まであるので歩けないよ。」と私の姿を見て笑う。

この道ではなかったのかと先程の道路まで戻り、不安な気持ちで歩き進む。暫らく行くと雪かきをしていた人に道順を尋ねる。「この道をまっすぐ行くと橋があるから、渡ったらすぐ左にある。」とのこと。

こうして時間ギリギリに会場にたどり着いた次第である。つかれた！

会場の中に入った途端に「ベニマシコだ！」との声。

みんながガラス戸越しに観察していた。受け付けを済まして会場を見渡すと、すごくたくさんさんの顔がある。

総勢49名（うち子供6人を含む）も参加しているとのこと、広い会場いっぱいの盛況だ。

コウライキジが悠々とエサを啄んでいる。白鳥園ではよく見られるそうであるが、私にとっては珍しい。北海道にはコウライキジしかいないとのことだった。

ミヤマカケス、スズメが多い。今年はカラ類が少いそうであるが、シジュウカラやハシブトガラが現われる。

ヒヨドリが一羽、ゆったりとエサを食べていた。

今回は11種が観察された。

やがて柳澤会長さんの「新年初めての探鳥会だが、鳥だけでなく、参加者の顔もよく覚えて」の挨拶に始まり、山田良造さんから、この時期に見られる野鳥と観察場所のお話。そのうちに、小澤のおばあちゃんからの差し入れのお酒、ビール、おいしい豚汁に会場は盛りあがる。

大きな音とともに屋根の雪が落ち、窓がうずまってしまうハプニング。竹内幹事の用意したクイズゲームもあって、大変たのしい新年探鳥会でした。幹事、関係者の方にお世話になり、有り難うございました。

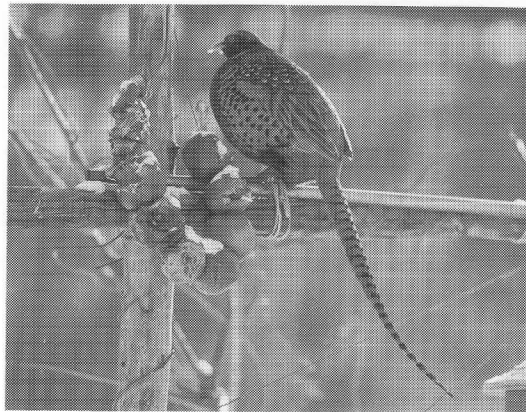
〒066 千歳市稲穂3-14-9

[記録された鳥]コウライキジ、ベニマシコ、ミヤマカケス、シジュウカラ、ハシブトガラ、ヤマゲラ、アカゲラ、シメ、スズメ、ヒヨドリ、ハシブトガラス

以上 11種

[参加者]大町欽子、鹿島憬策・土師子、木村与吉、栗林宏三、小堀煌治、佐藤 勇、清水朋子、霜村耕一・佳代子・耕太・莉絵、菅沼良三・郁子、高栗 勇、高屋敷征子、竹内 強、武沢和義・佐知子、武本行和、田中志司子、戸津高保・以知子、野坂英三、久田伸一、森 茂太・純子・林太郎、森田新一郎、柳澤信雄・千代子、矢野玲子、山田良造、五十嵐加代子、伊東幸子、伊藤博見・聖子・慎二郎、小山内さと子、佐々木 裕・政子、長谷川 稔、花田和枝、広木朋子、溝口恵美、元谷千鶴子、山本 充・昌代・侑 以上 49名

[担当幹事]小堀煌治、竹内 強、矢野玲子



コウライキジ

## 晴天の冬の森林公園で

8. 2. 11 久保田 喜代美

三連休の二日目。テレビでは、豊浜トンネルの大きな岩による崩落事故のニュースが。「これは大変な事になってしまった。」と思いながら、ふと、外を見ました。

久しぶりの冬の晴天に誘われて、森林公園に行こうと決めました。駐車場から集合場所へ、早速“歩くスキー”を履いて…。「お早うございます。」とお互いに挨拶を交し合っ。「今日は、ちょっと少ない人数だわ。」と思ひながらリーダーの方のお話を聞く。「さて、出発だ。」と思ひきや、オジロワシが実に悠々と飛んでいきました。一瞬、その精悍な姿に見入っていました。

「今日は、バードウォッチングに最適の日だわ。」こんな空は雲一つなく、まずオジロワシと会えたり。どんな鳥さん達と会えるやら、と胸をわくわくさせながら出発しました。参加した10名皆さんは、全て歩くスキー、双眼鏡を首から下げていました。ゆっくり、のんびり歩きました。この速度がたまたまいい。森林の周りの雪景色をかみしめながら進めるから。樹々の枝には雪がまるでお布団のように半分掛けてありました。

「コチコチ、コチコチ」と静寂の森林にひとときわ響く音。ヤマゲラでした。しばらく私達がいるのにも気づかずに「コチコチ、コチコチ……」。途中で散歩していた犬とも会いました。嬉しかったのか、飛び跳ね、首輪がはずれてしまいました。不思議と、森林の小道は、景色も自然も動物も人間も幸せいっぱいです。

松の木林にキクイタダキのかわいい声が。そして向かいの松の木々の頂上に行ったり来たりと。かなりの数だ。冬の晴天は、鳥たちも大喜びなのでしょう。ヒヨドリ、ヤマガラ、エナガ、カケス、キバシリ、コゲラ等とも「こんにちは！」

ととてもびっくりしたのは、クマゲラとも会えた事でした。「クイーン、クイーン」の音で、リーダーの方が「クマゲラがいるよ」で、指差す方を見ると「いたーッ！」頭の赤は薄いので雌。しばらく木に登りながら「クイーン、クイーン」。そして「キャラッ、キャラッ」と鳴いて飛んでいった。なかなか会えなかったクマゲラに今日、出会えたなんて、最高の一日でした。お風呂に入って目を閉じると一日の森林の思い出が甦り、また幸せ気分になりました。

愛護会の皆さん、今日も本当にありがとうございます。

〒004 札幌市厚別区厚別南5丁目5～15

[記録された鳥] オジロワシ、コゲラ、アカゲラ、クマゲラ、ヤマゲラ、ヒヨドリ、キクイタダキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、キバシリ、アトリ、マヒワ、ウソ、カケス、シメ、ハシブトガラス 以上20種

[参加者] 後木建一、久保田喜代美、栗林宏三、白澤昌彦、鈴木康夫、鈴木純子、須藤 節、竹中昭雄、竹中悦子、富田寿一、船越昭則、柳澤信雄、 以上12名

[担当幹事] 富田寿一、白澤昌彦



カケス

### 川辺先生講演会メモランダム

(編集子)

1月13日(土)13時30分から、札幌市女性センターで、川辺百樹先生(ひがし大雪博物館・学芸員)から大雪山の鳥たちについてご講演をいただいた。

川辺先生といえば、ミユビゲラ、キンメフクロウの調査、研究、保護のために全精力を投入されておられる。

講演された内容のうち特筆すべき点を列挙してみる。

- (1) ギンザンマシコ・大雪山で繁殖、ハイマツの実を好んでたべる。鳥名の由来はさて何か?
- (2) シロフクロウ・北極圏の鳥、トムラウシ山の近く

で越冬することあり。ナキウサギやヤチネズミを餌としている。

- (3) ライチョウ・本州や千島にはいるが北海道にはいない。
- (4) ミユビゲラ・はづかしがりやの鳥、なかなか声を出さない。見つけにくい。指は3本、オスの頭は黄色。暗い林では赤より黄色が目立つ?
- (5) キンメフクロウ・オオコノハズクぐらい。ヒゲ、マユゲに特長。クマゲラの作った巣に営巣する。
- (6) 「守ろう北の森の鳥たち」ひがし大雪博物館友の会では、広く協力を呼びかけています。

TEL01564 (4) 2323 FAX 01564 (4) 2150

# モロッコの旅先で鳥見行

早坂泰夫

1月3日から17日までのモロッコ・スペイン旅行の折に見かけた野鳥について、記してみたいと思います。今回の旅行は、バードウォッチングを目的としたものではないため、きちんと見ることはできませんでしたが、立ち寄った街や地域で10種類ほど（もっと多くの鳥を見たのですが、特定できませんでした。）の鳥に出会うことができました。

モロッコは、アフリカの北西部にあり、大西洋と地中海に面した国です。

気候の分布は、大西洋岸性、地中海性、高原性、山岳気候、砂漠性と多様性に富んでいますが、特に、地中海、大西洋と、サハラ砂漠、そして、アトラス山脈という複雑な自然環境が、この国の気候に深く影響している。

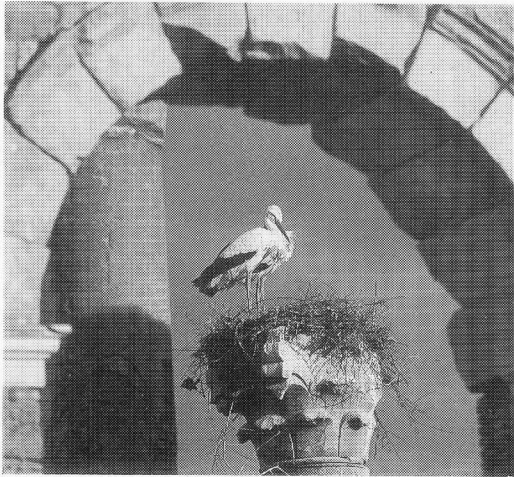
鳥の種類、分布などでいえば、ヨーロッパの一部と見なされ、水鳥をはじめ、草原、砂漠の鳥、アトラス山脈にはヒマラヤとの共通種もいるなど、多種多様である。

モロッコのバードウォッチングといえば、オオフラミンゴ、シギ、チドリ、カゴメ類が有名ですが、なかでも、シロハラチュウシャクは、希少種の中の一、二を争う鳥ですが、この鳥の越冬地として、知られています。

これらの水鳥のほとんどは、大西洋岸から河川の下流部にある湿地帯や湖沼で見ることができます。

残念ながら今回は、別な目的旅行のため大西洋岸は、ほとんど立ち寄りませんでした。

訪れたところはマラケシュ、メクネス、フェズなどの内陸部の街とモロッコ最大の都市であるカサブランカなどでした。



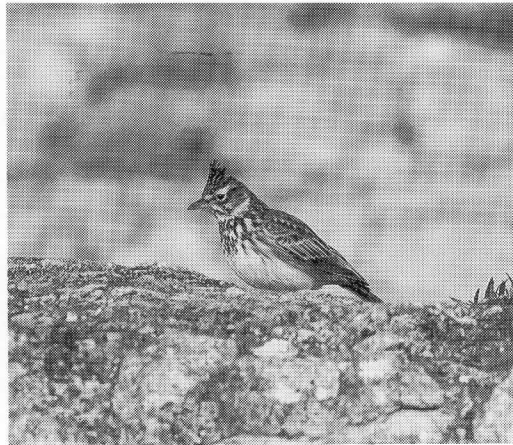
コウノトリ

最大の収穫はコウノトリを何度か見ることができたことです。地元のひとつには、馴染みの鳥なのですが、初め見た時には、びっくりしました。

写真や絵でよく見られるように、高い木の上とか、郊外の牧場（モロッコは羊が主ですが）の家の煙突に巣を構えています。

メクネスからフェズに向かう途中ヴォリビリスというローマ時代の遺跡（この遺跡は、イスラム教の国にはめずらしい異文化のローマ帝国の遺跡ですが）があり、

なんと、この遺跡の柱の上に巣がつくってありました。初め、一羽（多分、雌だと思います。）巣にいましたが、上空を飛翔していたもう一羽の方（雄）が巣に下りてきました。そして、くちばしをカタカタカタと鳴らす特有のしぐさを見ることができました。この行動は、とても楽しく、興味深いものでした。



カンムリヒバリ

そのほか、街の中では、スズメ、ムクドリの間を、郊外の林の中では、キクイタダキもみることができました。草原や灌木のある半乾燥地帯では、サバクヒタキの間やカンムリヒバリ、ヒゴロモマシコ（くちばしがきれいな赤色）を確認できました。

ほんの少し垣間みた鳥見行でしたが、もう一度訪れて見たい国です。

〒004 札幌市厚別区厚別北4条2丁目6-5





### 【野幌森林公園】

平成8年4月14日(日)  
5月5日(日)  
5月10日(金)

樹々の芽も膨らみ次々に夏鳥も渡来し森は鳥たちで活気が溢れて来ます。ヤマゲラ、アカゲラ等のドラミング、珍しいキバシリの囀りが聞かれるのも此の頃、松川・大沢の池ではカイツブリ、オシドリが毎年見られます。今年は「平日にも」の声に応えバードウィークにあわせ初めて平日探鳥会を試みます。

集合=9時大沢口駐車場入口

交通=新さっぽろから夕張バス(文京台線)大沢公園入口下車徒歩5分

### 【宮島沼探鳥会】平成8年4月21日(日)

生まれ故郷のユーラシア大陸シベリア北極圏への長旅を前に羽根を休めるマガンの大群は壮観そのものです。この群れに混じってヒシクイ、オオハクチョウ、コハクチョウも多く見られハクガンやカリガネなどの珍鳥も気になるところです。今年は滝川支部と合同で行います。

集合=宮島沼畔 大富会館前午前10時

### 【千歳川周辺一泊早朝探鳥会】

平成8年5月11日(土)~12日(日)

水辺、山野、草原と多様なフィールド、早朝、時期と絶好の条件が揃った中で多彩な鳥見が楽しみです。キ・ハク・セグロと3種のセキレイが揃い、ヤマセミ、カワセミ、クロツグミ、オオトリと姿・声とも楽しみをましてくるでしょう。早朝です寒さ対策をお忘れなく。

日時=平成8年5月11日(土)午後7時から交流会

12日午前4時から探鳥開始、午前中解散予定

場所=[支笏湖ユースホテル]

千歳市支笏湖温泉番外地 0123-25-2311

会費=4000円程度 宿泊料(夕食付)朝食持参

集合=19時支笏湖ユースホテル又は18時JR千歳駅待合室(マイクロバスが迎えに来ます。)

申込=4月と5月の野幌探鳥会の時、電話の場合は5月9日までに 011-(563-5158)(夜6時~8時受付)白澤昌彦さん宅へ

### 【鶴川探鳥会】平成8年5月19日(日)

北の繁殖地へ向かうシギ・チドリの中継地で、春の滞りは短く当り外れは否めませんが夏羽のダイゼン、メダイチドリ、キョウジョシギ、オオソリハシシギ等が魅力です。他に何が飛び出すかが楽しみ、長靴が無難

集合=午前9時30分 JR鶴川駅前集合

### 【植苗・ウトナイ】平成8年6月9日(日)

モズ、ホオジロ、センダイムシクイ、キビタキ等林間・

山野の鳥を観察しながら草原に向かいます。コヨシキリの懸命な囀りに迎えられウトナイ湖畔の草原に入ります。ここでの主役はシマアオジ、ノビタキ、オオジュリン、なんと言っても人気の的はノゴマです。

集合=JR千歳線 植苗駅前 9時10分

### 【東米里探鳥会】平成8年6月16日(日)

カッコウの声が聞かれアカモズ、オオジシギ、コウライキジ等が見られる札幌市内では今や貴重な探鳥地です。僅かな生息環境でもしたたかに生きる鳥たちの姿を探しましょう。

集合=東米里正門前 午前8時30分

交通=地下鉄菊水駅より市営バス(白7米里線)東米里小学校前下車

### 【平和の滝夜の探鳥会】平成8年6月22日(土)

手稲山の山裾を流れ下る溪流が平和の滝へ注ぐその流れに沿って森林に覆われた登山道を歩き約2Kで小高い台地に着きます。送電線の鉄塔がなければ見渡す山々には深山の趣きを感じられ薄暗い夜空にヨタカ、ヤマシギ等が飛び、コノハズク、ヨタカの鳴く声が聞こえ始めます。鳥を無用に刺激しないよう静かに夜の探鳥のマナーです。

集合=平和の滝駐車場 18時30分

交通=地下鉄琴似駅から市営バス(西42西野平和線)平和の滝入口(終点)下車徒歩約20分

### 【福移探鳥会】平成8年7月7日(日)

豊平川が石狩川へ合流する地点の下流域・河畔林等が観察地でホオアカ、ベニマシコ、ノゴマ、カワセミ等、牧草刈りの跡地ではウズラを見ることも出来ます。

集合=市営バス福移入口停留所横 8時40分

交通=地下鉄東豊線環状通東駅より、市営バス北札苗線福移入口下車

### 【野幌森林公園を歩きましょう】

平成8年4月7日(日) 5月26日(日)

6月2日(日) 7月14日(日)

集合=大沢口駐車場入口 午前9時

- ★いずれの探鳥会も余程の悪天候でない限り行きます。
- ★交通機関を利用される方は、各自でお確かめ下さい。
- ★昼食、雨具、観察用具、筆記用具をご持参下さい。
- ★探鳥会の問い合わせ(011)857-6364 柳沢 宅へ

## 鳥民だより

### ◆ 平成7年度・定時総会開催ご案内

- ・日 時 平成8年4月13日(土) 14時～
- ・場 所 札幌市民会館 第二号会議室
- ・議 案 (イ)平成7年度事業報告、会計報告  
(ロ)平成8年度事業計画(案)ならびに予算(案)、その他

会員各位のご参集をお願いいたします。

### ◆ 平成8年度野鳥写真展の作品募集について

- ・募集要領 サイズは四ツ切りとし、カラー、白、黒を問いません。応募作品には、鳥名・撮影月日、場所を明記してください。
- ・送り先 柳澤信雄会長宛 ☎003札幌市白石区栄通8丁目3-31 TEL (011) 851-6364
- ・期 限 平成8年4月20日(土)まで
- ・写真展開催日程  
たくぎん本店キャッシュコーナー  
5月8日(水)～5月27日(月)  
たくぎん札幌西支店ロビー内  
5月29日(水)～6月24日(月)

ほくでんエレナードギャラリー

6月26日(水)～7月2日(火)

### ・ 出展者各位へお願い

それぞれの会場での開催日(初日)および終了日には、展示作業または撤収作業のためのボランティアをお願いします。該当日の現地集合時間は原則として、午前9時と午後5時といたしますが、念のため予め柳澤会長にお確かめください。

なお、たくぎん札幌西支店につきましては銀行サイドで取り仕切りますのでご足労はいりません。

### ◆ 年会費の納入について

本会は会員各位からの年会費だけが唯一つの運営資金であります。従いまして会費収入の如何が直接会の運営を左右することになります。

つきましては、平成7年度および平成6年度、それ以前の年会費未納の方は恐れ入りますが、早急にお納めくださるようお願いいたします。

### ◆ 5月10日(金)野幌森林公園平日探鳥会

(前掲) 平日ならば探鳥会に参加したいというご要望がすく寄せられていますので、初めての試みとして実施します。多数のご参加をお待ちしています。

## 会 員 名 簿 ( 追 補 )

(平成8年3月6日現在)

新会員の方々および住所を変更された会員についてお知らせいたします。

なお、今後は本欄で逐次ご紹介してまいりますので、ご異動・ご転居された方にはハガキで下記まで連絡ください。

幹事・霜村耕一宛 〒063 札幌市東区北16条東3丁目 ロジエ北16条-303号

[ 新しく会員になられた方をご紹介します。 ]

柏 葉 明	854-1057	062	札幌市豊平区月寒西1条10丁目3-4-404
河 端 正 晴		059 -09	白老郡白老町末広3-16-5
佐々木 裕	596-2660	061 -22	札幌市南区藤野4条11丁目239-122
五十嵐 加代子	723-0067	065	札幌市東区北15条東3丁目
浦 坂 誠 子	0473 35-7909	273	船橋市本中山3-19-7
田 子 元 樹	667-0489	063	札幌市西区2条6丁目3-60-101

[ 転居または表示変更いたしました ]

正 富 宏 之	072	美唄市東4条南6丁目
越 後 弘	073	滝川市本町3丁目7-26
国 本 昌 秀	562-6986	064 札幌市中央区南15条西12丁目1-35-802

[ 北海道野鳥愛護会 ] 年会費 2,000円 (会計年度4月より) 郵便振替 02710-5-18287

☎060 札幌市中央区北3条西11丁目加森ビル5・6階 北海道自然保護協会気付 ☎ (011) 251-5465